

編集後記

P2M マガジン編集委員長 亀山秀雄

P2M マガジン 9 号をお届けします。
今年、国際 P2M 学会創設から 15 年目の節目の年です。このような年に新型コロナウイルス感染症による社会的大変革が発生しました。国際 P2M 学会は、春季大会を中止しましたが、その際にホームページを通じて、学会としての声明を出しました。
その中に「今度の COVID-19 が引き起こした世界的な騒乱は、私達が、VUCA の時代と言われるように如何に不確実で複雑で変動の激しい世界に生きているかを思い知らされるところとなっています。しかし、これは私達が、新たな P2M を生みだし、今後の指針を示すべきと鼓舞されていると考えるべきだと思います。会員の皆様、中止を単なるお休みとせず、休憩時間の有効活用を考えよう、と呼びかけます。」との呼びかけ文を受けて P2M マガジンでは、学会の理事・評議員はじめ学会の論文誌にリスク関連の論文を書いている会員に呼び掛け

て、特集 リスク対応と P2M—新しい生活様式の中でのマネジメントの在り方—に寄稿していただくお願いしたところ、多くの方から寄稿いただきました。合わせて、3 名の方の推薦をいただきました特別寄稿 3 本も併せて 11 本の解説による特集を組むことができました。特集だけでなく、常設のコーナーにも寄稿いただいた方にも含めて、ここに編集委員一同御礼を申し上げます。

事務局も応援をいただき、本号から執筆料金を会員千円/頁、非会員・特別寄稿二千円/頁と改定していただき、学会としても寄稿に謝意を示すことになりました。最後に、次号は12月発行予定ですが、P2M マガジン10号と学会創設15年と合わせてダブルで記念すべき号になりますので、編集委員一同魅力的な企画を提供したいと考えています。その際にも、原稿執筆など皆様のご協力をお願いいたします。